



## 画像処理実習

#### 宮本 信彦

国立研究開発法人産業技術総合研究所 インダストリアルCPS研究センター







## 資料

- 「WEBページ」フォルダのHTMLファイルを開く
  - チュートリアル(画像処理実習) \_ OpenRTM-aist.html
- もしくは以下のリンク
  - https://openrtm.org/openrtm/ja/node/7197



- 事前準備
- 動作確認

#### はじめに

このページでは、OpenCVの画像処理により図形を検出して移動ロボット (Raspberry Piマウス) を追従させるRTCの作成手順を説明します。

#### 作成するRTコンポーネント

• CircleTracking コンポーネント: OpenCVライブラリのHoughCircles関数で円を検出して、検出した円の方向に移動ロボットが回転するように制御するRTC

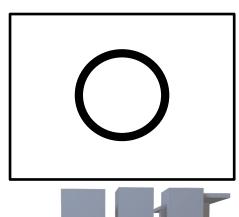




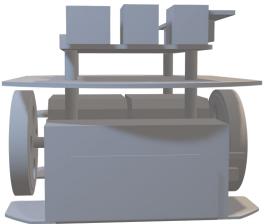


## 画像処理コンポーネントの作成

• 発展的な課題として、OpenCVを使った画像処理コンポーネントを作成する



課題:円形の図形を カメラで検出して、 移動ロボットの向き を追従させる

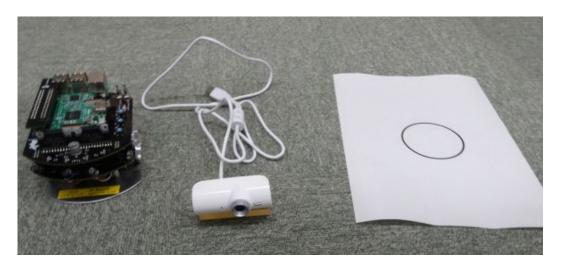






## カメラ用マウントの取り付け

- 今回の課題で必要な機材は以下の3点
  - Raspberry Piマウス本体
  - USBカメラ (カメラ用マウントに固定済み)
  - 円を描いた紙



Raspberry PiマウスにUSBカメラを取り付けるため、 LiDARは取り外す





### カメラ用マウントの取り付け

• LiDARマウントを固定する用のネジでカメラ用マウントを固定する











#### USBカメラとノートPC接続

• ノートPCとUSBカメラをUSBポートで接続する







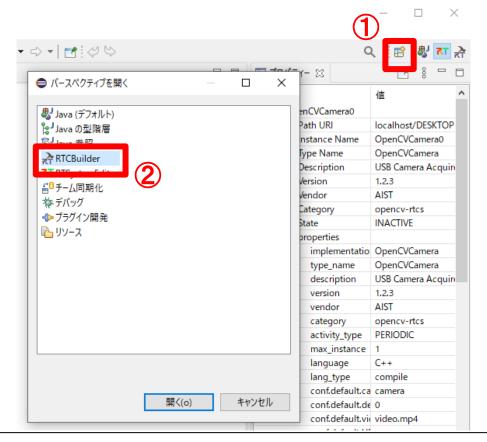
# RTC Builderによる ひな型コード生成





#### RTC Builder起動

RT System Editorを起動中の場合は、 「パースペクティブを開く」画面から起動する



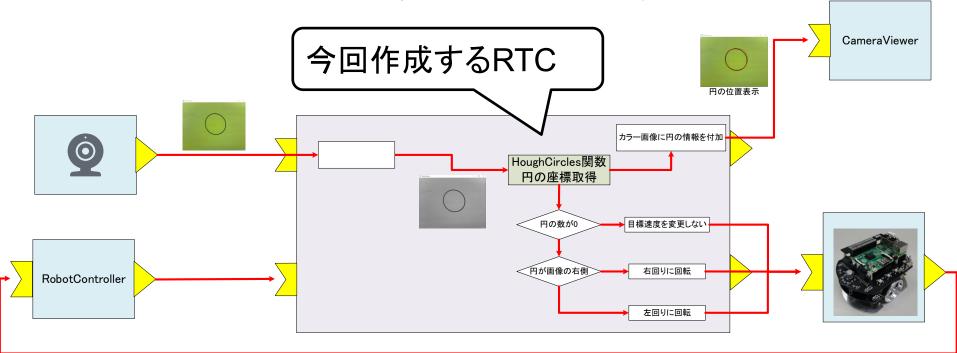






## 作成するRTCの概要

- カメラ画像から円形の位置を検出して、移動ロボットの向きを以下のように制御
  - 円が画像の左側の場合は左回りに回転
  - 円が画像の右側の場合は右回りに回転



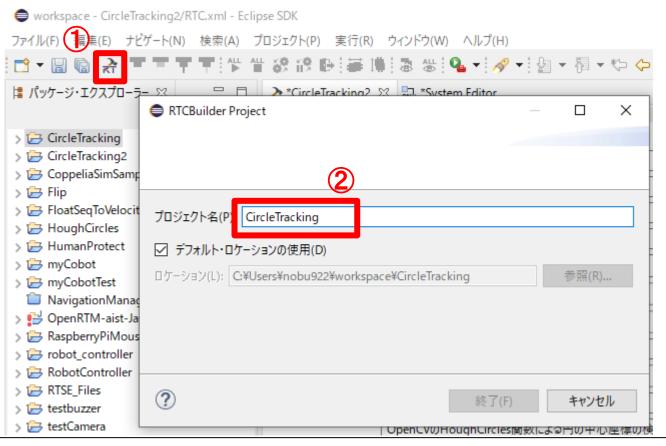




## プロジェクト作成

今回は「CircleTracking」という名前のプロジェクトを作成する









## 基本プロファイル入力

- コンポーネント名:
  - CircleTracking
- 言語
  - C++
- ・ 他の項目は今回は入力の必要なし

#### RT-Component Basic Profile

▼ RT-Component B	lasic Profile						
このセクションではRTコンポーネントの基本情報を指定します。							
*コンポーネント名:	CircleTracking						
概要:	Get Circles Position Component						
*バージョン:	1.0.0						
*ベンダ名:	AIST						
*カテゴリ:	ImageProcessiong	~					
コンポーネント型:	STATIC	~					
アクティビティ型:	PERIODIC	~					
最大インスタンス数:	1						
実行型:	PeriodicExecutionContext	~					
実行周期:	1000.0						
概要:	OpenCVのHoughCircles関数による円の中心座標の検出を行うコンポーネント	< v					
RTC Type :							
▼言語							
このセクションでは使用する言語を指定します							
<ul><li>● C++</li><li>○ Java</li><li>○ Lua</li></ul>							

Python

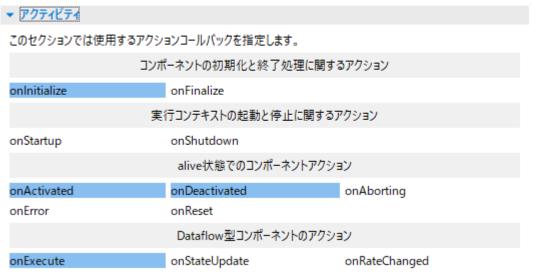




## アクティビティ

- ・以下の3つを有効化
  - onActivated
  - onDeactivated
  - on Execute

#### アクティビティ

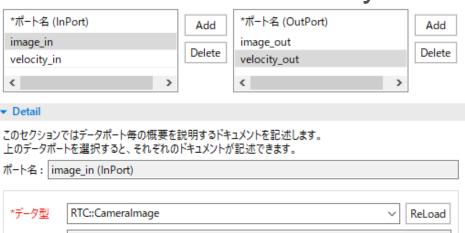






## データポート

- 以下のInPortを設定する
  - image\_in
    - データ型: RTC::Cameralmage
      - ※Img::Cameralmageと間違えないように注意
      - ※RTC::CameraInfoと間違えないように注意
  - velocity\_in
    - データ型: RTC::TimedVelocity2D

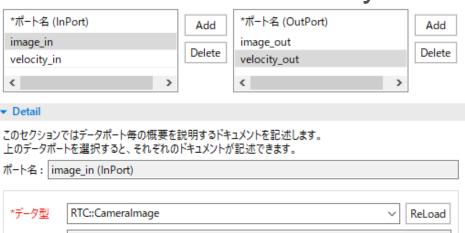






## データポート

- 以下のOutPortを設定する
  - image\_out
    - データ型: RTC::Cameralmage
      - ※Img::Cameralmageと間違えないように注意
      - ※RTC::CameraInfoと間違えないように注意
  - velocity\_out
    - データ型: RTC::TimedVelocity2D



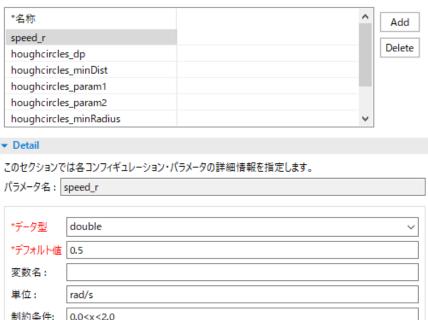




## コンフィギュレーションパラメータ

以下のコンフィギュレーションパラメータを設定する

- speed\_r
  - データ型: double
  - デフォルト値:0.5
  - 制約条件: 0.0<x<2.0
  - Widget: slider
  - Step: 0.01



Widget:

Step:

slider

0.01





## コンフィギュレーションパラメータ

- 以下のコンフィギュレーションパラメータを設定する
  - houghcircles\_dp
    - データ型:double
    - デフォルト値:2
    - Widget:text
  - houghcircles\_minDist
    - データ型:double
    - デフォルト値:30
    - Widget:text
  - houghcircles\_param1
    - データ型:double
    - デフォルト値:100
    - Widget:text

Widgetがsliderになっている場合は、必ずtextに変更する

1	"有你			Add
	speed_r			
	houghcircles	_dp		Delete
	houghcircles	s_minDist		
	houghcircles	s_param1		
	houghcircles	s_param2		
houghcircles_minRadius		s_minRadius	V	
•	r Detail			
	このセクションで	は各コンフィギュレーション・パラメータの詳細情報を指定します。		
	パラメータ名:「ト	noughcircles_dp		
		- ·		
	*データ型	double		~
	*デフォルト値	2		
	変数名:			
	単位:			
	割約冬件:			

Widget:

Step:

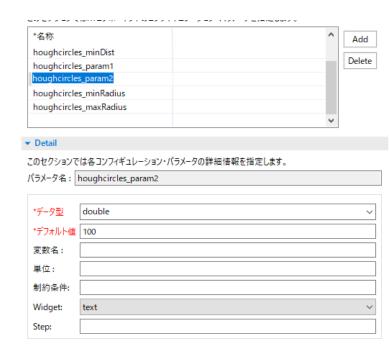
text





## コンフィギュレーションパラメータ

- 以下のコンフィギュレーションパラメータを設定する
  - houghcircles\_param2
    - データ型:double
    - デフォルト値:100
    - Widget:text
  - houghcircles\_minRadius
    - データ型:int
    - デフォルト値:0
    - Widget:text
  - houghcircles\_maxRadius
    - データ型:int
    - デフォルト値:0
    - Widget:text

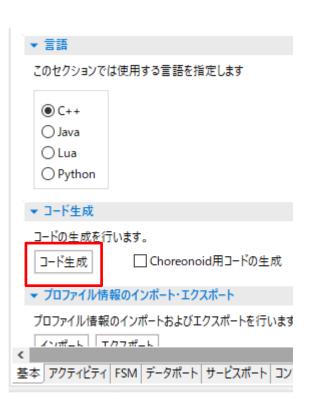






#### コード生成

• コード生成後、ファイルが生成されたかを確認



プロジェクトを右クリックして、「表示方法」 →「システムエクスプローラー」







#### CMakeLists.txtの編集

- srcフォルダ内のCMakeLists.txtをメモ帳等 で編集する
  - ※ CircleTrackingフォルダ直下のCMakeLists.txtではないので注意

名前	更新日時	種類	サイズ
CircleTracking.cpp	2022/09/29 15:30	C++ ソース ファイル	9 KB
CircleTrackingComp.cpp	2022/09/29 12:04	C++ ソース ファイル	4 KB
CMakeLists.txt	2022/09/28 10:34	テキスト ドキュメント	з КВ

OpenCVを使うため、find\_packageでライブラリを検出する。

```
set(comp_srcs CircleTracking.cpp )
set(standalone_srcs CircleTrackingComp.cpp)
find_package(OpenCV REQUIRED) #追加
```





#### CMakeLists.txtの編集

- リンクするライブラリにOpenCVを追加する
  - 以下の2か所

```
# 以下は修正前
# target_link_libraries(${PROJECT_NAME} ${OPENRTM_LIBRARIES})
# 以下は修正後、${OpenCV_LIBS}を追加
target_link_libraries(${PROJECT_NAME} ${OPENRTM_LIBRARIES} ${OpenCV_LIBS})
```

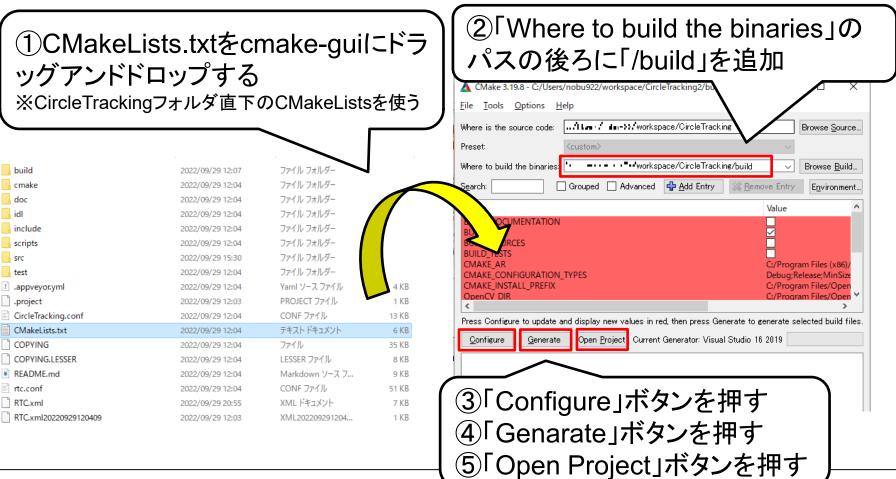
```
# 以下は修正前
# target_link_libraries(${PROJECT_NAME}Comp ${OPENRTM_LIBRARIES})
# 以下は修正後、${OpenCV_LIBS}を追加
target_link_libraries(${PROJECT_NAME}Comp ${OPENRTM_LIBRARIES} ${OpenCV_LIBS})
```





## ビルドに必要なファイルの生成

CMake(cmake-gui)でビルドに必要なファイル (Visual Studioのプロジェクトファイル等)を生成



NATIONAL INSTITUTE OF ADVANCED INDUST





- CircleTracking.hの編集
  - opencv2/opencv.hppをインクルードする

```
34: #include <rtm/DataInPort.h>
```

35: #include <rtm/DataOutPort.h>

36:

37: #include <opencv2/opencv.hpp> //追加

- 「private:」の下あたりに、以下の3行を追加する

入力画像データ、出力画像データを格納 する変数を宣言 移動ロボットの回転方向を格納する変数を宣

- 0:回転方向を指定しない
- 1:左回りの回転
- 2:右回りの回転

314: private:

315: cv::Mat m imageBuff; //追加

316: cv::Mat m\_outputBuff; //追加

317: int m direction; //追加





CircleTracking.cppの編集

```
RTC::ReturnCode_t CircleTracking::onActivated(RTC::UniqueId /*ec_id*/)
{
    // OutPortの画面サイズをのに設定
    m_image_out.width = 0;
    m_image_out.height = 0;

    //進行方向をの(回転方向を指定しない)に設定
    m_direction = 0;
    return RTC::RTC_OK;
}
```

```
RTC::ReturnCode_t CircleTracking::onDeactivated(RTC::UniqueId /*ec_id*/)
{
    if (!m_outputBuff.empty())
    {
        // 画像用メモリの解放
        m_imageBuff.release();
        m_outputBuff.release();
    }
    return RTC::RTC_OK;
}
```





CircleTracking.cppの編集

```
RTC::ReturnCode t CircleTracking::onExecute(RTC::UniqueId /*ec id*/)
                                      InPort (image_in) でデータを受信して、
  if (m image inIn.isNew())
                                      変数m_imageBuffに画像データをコピー
   cv::Mat gray;
                                      するまでの処理
   std::vector<cv::Vec3f> circles;
   // 画像データの読み込み
   m image inIn.read();
   // InPortとOutPortの画面サイズ処理およびイメージ用メモリの確保
   if (m image in.width != m image out.width || m image in.height != m image out.height)
     m image out.width = m image in.width;
     m image out.height = m image in.height;
     m imageBuff.create(cv::Size(m image in.width, m image in.height), CV 8UC3);
     m outputBuff.create(cv::Size(m_image_in.width, m_image_in.height), CV_8UC3);
   // InPortの画像データをm imageBuffにコピー
   std::memcpy(m_imageBuff.data,
               (void *)&(m image in.pixels[0]),
              m_image_in.pixels.length());
```





CircleTracking.cppの編集

グレースケール画像から円を 検出するまでの処理

HoughCircles関数の引数にコンフィギュ レーションパラメータの変数を指定する



CircleTracking.cppの編集

```
//円を検出できた場合の処理
if (!circles.empty())
 //円の位置が画像の左側の場合は左回りに回転するように設定
 if (circles[0][0] < gray.cols / 2)</pre>
   m direction = 1;
 //円の位置が画像の右側の場合は右回りに回転するように設定
 else
   m direction = 2;
//円を検出できなかった場合は回転方向の指定をしないように設定
else
```

以下の条件で移動ロボットの回転方向を変更

- 円が検出できた
  - 円が画像の左側
  - 円が画像の右側
- 円が検出できなかった

m direction = 0;





CircleTracking.cppの編集

```
//元のカラー画像をコピーして円の情報を画像に追加
std::memcpy(m outputBuff.data,
           (void *)&(m image in.pixels[0]),
                                           確認用に検出した円を元の画像に付加
           m_image_in.pixels.length());
                                           して、OutPort (image out) から出力す
                                           る処理
for (auto circle : circles)
 cv::circle(m outputBuff,
           cv::Point(static_cast<int>(circle[0]), static_cast<int>(circle[1])),
           static cast<int>(circle[2]),
           cv::Scalar(0, 0, 255), 2);
// 画像データのサイズ取得
int len = m outputBuff.channels() * m outputBuff.cols * m outputBuff.rows;
m image out.pixels.length(len);
// 円の情報を付加した画像データをOutPortにコピー
std::memcpy((void *)&(m_image_out.pixels[0]), m_outputBuff.data, len);
//画像データを出力
m image outOut.write();
```





CircleTracking.cppの編集

```
if (m velocity inIn.isNew())
                                    速度指令をInPort (velocity in) から読
 //速度指令値を読み込み
                                    み込んで、検出した円の位置により回転
 m velocity inIn.read();
                                    速度を変更する処理
 m velocity out = m velocity in;
 //円が画像の左側にある場合、左回りに回転する
 if (m direction == 1)
   m velocity out.data.va = m speed r;
 //円が画像の右側にある場合、右回りに回転する
 else if (m direction == 2)
   m velocity out.data.va = -m speed r;
 //速度指令値を出力
 m velocity outOut.write();
                                  ここまで追加
return RTC::RTC_OK;
                                  編集が完了したらビルドする。
```





#### RTCの起動

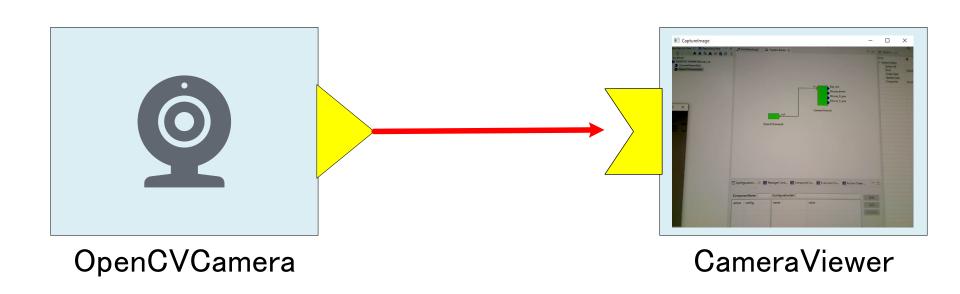
- ・ 以下の5つのRTCを起動する
  - RaspberryPiMouseRTC
  - RobotController
    - 「RTコンポーネントの作成入門」の資料を参照
    - https://openrtm.org/openrtm/ja/node/6550
    - https://openrtm.org/openrtm/ja/node/6551
  - OpenCVCamera
  - CameraViewer
    - OpenRTM-aistのサンプルコンポーネント
    - ・ 次のスライドで説明
  - CircleTracking
    - Windows
      - build¥srcフォルダのRelease(もしくはDebug)フォルダ内の実行ファイル(Comp.exe)
    - Ubuntu
      - Build/srcフォルダ内の実行ファイル





## サンプルコンポーネント概要

- OpenCVCamera
  - カメラから取得した画像をOutPortから出力する
- CameraViewer
  - InPortで受信した画像データを表示する

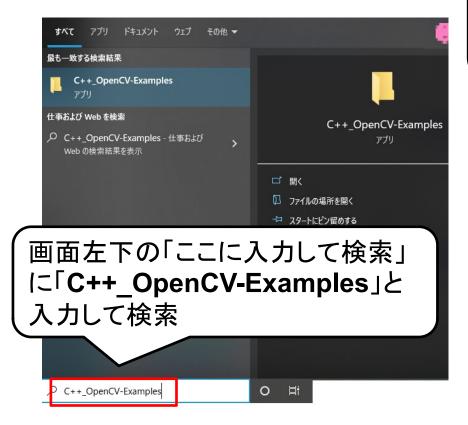






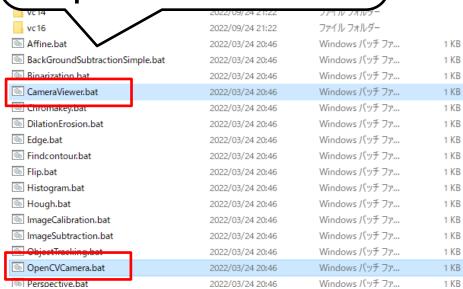
## サンプルコンポーネントの起動

- 起動手順
  - Windows



エクスプローラーから、以下の ファイルをダブルクリックする

- CameraViewer.bat
- OpenCVCamera.bat



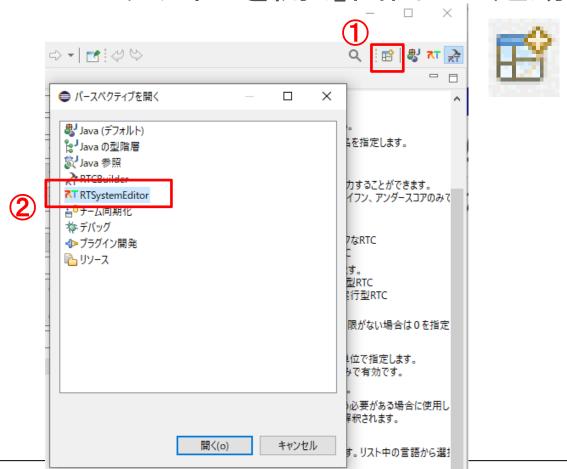




#### RTシステム構築

• RT System Editorを起動する。

- 「パースペクティブを開く」画面から起動する

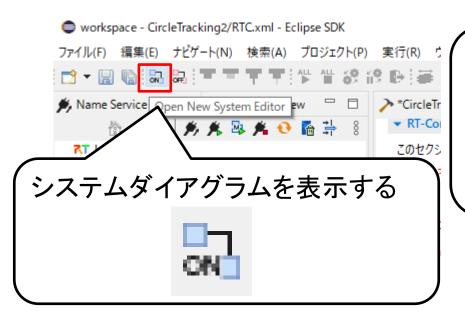


32

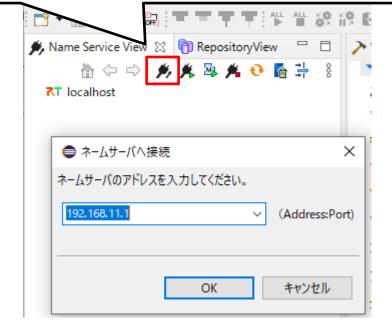




## 動作確認



ネームサービスビューに「192.168.11.1」 がない場合は、192.168.11.1のネーム サーバーへ接続する

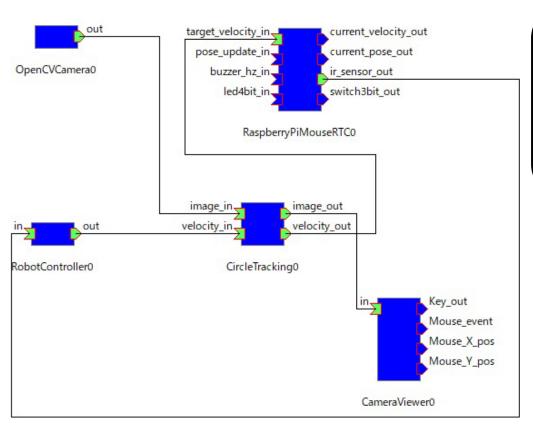






## 動作確認

RT System Editorで以下のようにポートを接続してアクティブ化する



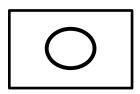






## 動作確認

円を描いた紙をカメラの前で動かして、 Raspberry Piマウスの動作を確認する





円が正常に検出できているか を、CameraViewerで確認する

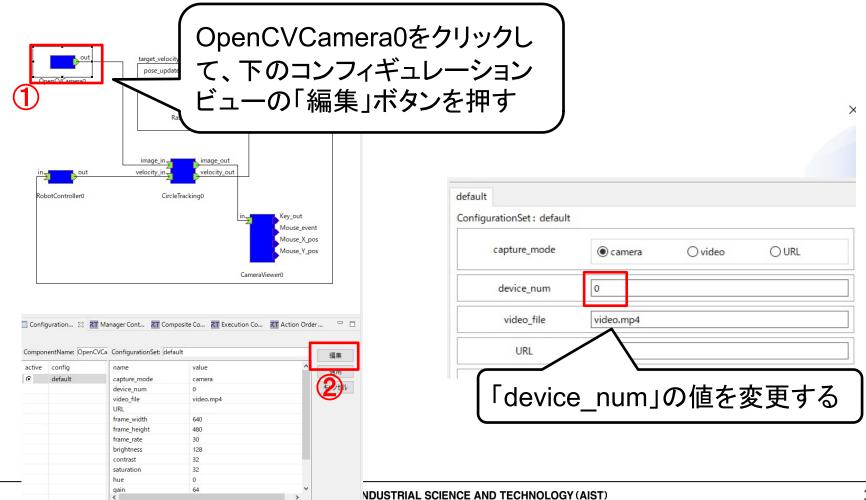






#### カメラのID指定

PC内蔵カメラなどの画像が表示されている場合は、コンフィギュレーションパラメータでカメラのIDを指定する







## HoughCircles関数のパラメータ調整

- 誤検出が多い場合は、HoughCircles関数のパラ メータを変更する
  - HoughCircles関数の詳細は以下を参照
    - http://opencv.jp/opencv-2svn/cpp/feature\_detection.html#cv-houghcircles

